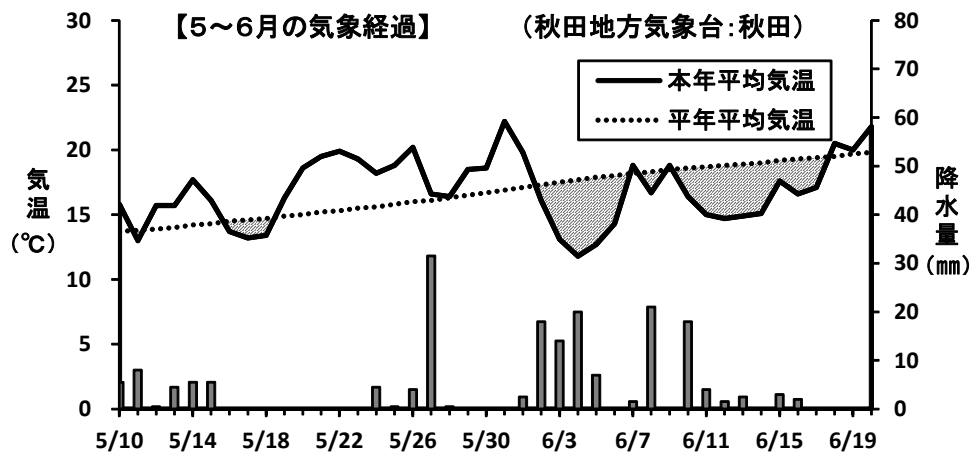


農作物の生育状況等について

水田総合利用課
園芸振興課

1 気象経過（秋田）

- 4月から5月にかけて気温はやや高く、5月の降水量は少なめに推移した。
- 6月上・中旬は、寒気の影響により気温が低く、多雨で日照時間の少ない日が続いている。



2 水 稲

(1) 生育状況

- 田植え作業は、平年並に推移し、好天に恵まれたため、苗の活着は良好であった。
- 6月19日に実施した調査によると、5月20日頃までに植えられたほ場は、比較的順調に生育しているが、田植えの遅いほ場では、初期生育が停滞し、茎数の増加は緩慢な傾向にあるなど地域やほ場により差がみられる。

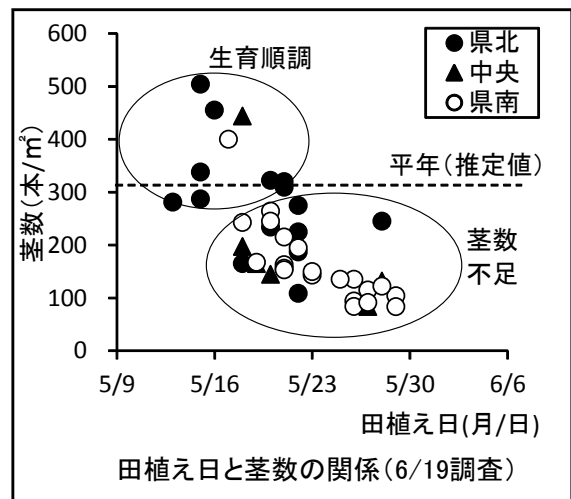
(平均茎数211本/m²: 平年(推定) 比68%)

6月19日調査 品種「あきたこまち」

地区	草丈		m ² 当たり茎数		葉数	
	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本)	平年比 (%)	本年 (葉)	平年差 (葉)
全県	27.9	85	211	68	7.0	-0.7
県北	29.5	88	284	79	7.4	-0.4
中央	27.3	80	194	59	7.0	-1.0
県南	27.0	85	165	58	6.7	-0.7

注1) 定点調査日は、毎年6/10と6/25で、今回の6/19は補完調査として実施

注2) 平年値(推計): 6月10日と6月25日の定点平年値より推定



(2) 当面の技術対策

- ほ場毎の生育状況に応じて、技術対策を講じる。

【生育が遅れ、茎数が少ない場合】

今月中に茎数を確保する必要があることから、温度の高い日や日照の多い日は浅水管理で水温と地温を高め、分げつの発生を促進する。

茎数が十分に確保できない場合は、強い中干しは避ける。

【生育が順調で、茎数が十分な場合】

茎数が過剰とならないよう、通常どおりの中干し又は深水管理を行い、分げつの発生を抑制する。

3 大豆

- 播種作業は、降雨が続いたため、盛期が6月17日と平年より8日遅れている。既に播種されたほ場では、発芽にやや時間を要しているが、出芽揃いは良好である。
- 今後播種する場合は、播種量を増やすとともに、排水対策の徹底と中耕・培土の適期実施で生育量の確保に努める。

4 園芸作物

(1) 生育状況

(野菜)

- 枝豆やネギ等の露地栽培は、生育が平年より5日程度遅れており、7月上旬から収穫が始まるメロンでは、やや小玉傾向となっている。
- すいかは、つるの伸長が緩慢で交配作業が遅れたことから、早出し作型（7月下旬穫り）の出荷がやや遅れる見込みである。
- アスパラガスは、昨年秋の株養成が不良だったことから、春穫りの収穫量は平年の7割程度となったが、現在、夏穫りに向けた茎葉の生育は順調に推移している。
- きゅうり等の施設栽培は、出荷が平年に比べ5日程度遅れており、特にトマトは、日照不足もあり着色の遅延が見られるほか、オクラは、一部落花等により収穫量の減少が見込まれる。

(花き)

- キク類は、草丈の伸長が緩慢で、生育は平年より5日程度遅れている。
- リンドウやダリア、シンテッポウユリは、平年並の生育となっている。

(果樹)

- おうとうは、果実の成熟の進度が鈍くなっており、出荷が遅れている。
- りんごや日本なしは、果実の肥大がやや遅れている。

(2) 当面の技術対策

- 施設栽培での温度管理や露地栽培での液肥施用等による肥培管理の徹底に努めるとともに、梅雨期の病虫害防除を徹底する。
- 果樹では、天候不順が続くと小玉になることが懸念されるため、適正な着果量を確保するよう摘果等の栽培管理に努める。

5 県の対応

- 当面の技術対策について、関係機関に通知したところであり（6月21日）、JA営農指導員と連携しながら農家への指導を行う。
- 稲作については、6月26日の定点調査の結果を踏まえて詳細な分析を行い、「作況ニュース第4号」として、最新の技術情報を提供する（6月29日予定）。